

平成29年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)
実 施 報 告 書

HT29316 プログラム名 染色と刺繍を体験して、アジアの民族衣装を着てみよう！



開 催 日：平成29年11月12日(日)

実施機関：大分大学

(実施場所) (旦野原キャンパス)

実施代表者：都甲 由紀子

(所属・職名) (教育学部 准教授)

受 講 生：中学生3名, 高校生6名

関連URL：<http://www.oita-u.ac.jp/01oshirase/topics/2017-077.html>

【実施内容】

○受講生に分かりやすく研究成果を伝えるために、また受講生に自ら活発な活動をさせるためにプログラムを留意、工夫した点

本プログラム参加者として中高生9名、ゲスト講師の防衛医科大学校の朝比奈はるか先生とブータン刺繍専門家の菊池多絵先生、研究室の学生7名の19名の参加があった。工夫した点については、講義内容を分かりやすく伝えるためスライドと講義テキストを作成し、講義中も実際の染織材料や民族衣装等を使って講義を行い、印象が残りにやすくなるようにし、参加者が飽きないように実習や体験が多くなるよう計画した。

○当日のスケジュール

- 9:00～ 9:30 受付(集合)
- 9:30～ 9:50 開講式(都甲 挨拶、自己紹介、1日のスケジュール確認)
- 9:50～10:20 講義(都甲 染色材料の植物や動物、染色実習の進め方の解説)
- 10:20～10:30 休憩
- 10:30～12:00 染色実習(刺繍糸とポケットチーフの染色)
- 12:00～13:00 昼食
- 13:00～14:30 刺繍の実習(菊池・都甲 染色した刺繍糸を使った刺繍)
- 14:30～15:00 ティータイム(ブータン・雲南省・ミャンマーの民族衣装着装)
- 15:00～15:45 講義(朝比奈 雲南省・ミャンマーのフィールド調査)
- 15:45～16:00 休憩
- 16:00～16:15 講義(都甲・朝比奈 研究職の仕事、科研費の説明)
- 16:15～16:30 修了式(アンケート記入、未来博士号授与)
- 16:30 終了・解散

○実施の様子

1 挨拶、講師紹介、講義(都甲 染色材料になる植物や動物の解説、染色実習の進め方の解説)

実施代表者による挨拶、講師の紹介、スケジュールの確認を行い、都甲より、天然染料に関係する講義を行って次の実習の進め方を解説した。

2 染色実習(ラック、茜による刺繍糸とポケットチーフの染色)

ブータンより持ち帰ったラック、購入した蘇芳とインド茜の3種類の染料を使用して、ポケットチーフと刺繍糸、多織交織布を染色した。ポケットチーフはビー玉とおはじきとゴムを使って絞りの模様を入れた。染色を体験したことのない参加者も多く、終始楽しそうな雰囲気だった。



プログラムのはじまり



ラックで染色中

3 昼食

刺繍糸を乾燥させながら、和やかな雰囲気の中となった。朝比奈はるか先生にお持ちいただいた雲南省のお茶も本格的な茶器で楽しんだ。

4 刺繍の実習(菊池・都甲 染色した刺繍糸を使った刺繍)

菊池先生のブータンの刺繍作品を鑑賞した後、染色した刺繍糸を用い、テーブルセンターに刺繍を施した。2色の糸を用い、チェーンステッチで渦巻きを作るブータンの刺繍技法で刺繍を体験した。



朝比奈先生の中国茶講座



菊池先生のブータンの刺繍作品を鑑賞



刺繍の実習



民族衣装を着ての記念撮影

5 ティータイム、ブータン・雲南省の民族衣装装着体験

ティータイムの時間には、お茶を飲みながら中高生、研究室の学生、講師皆で交流した。朝比奈先生は雲南省でのフィールド調査と並行してミャンマーでも調査されているので、ミャンマーの民族衣装をたくさんお持ちで、それをご持参いただいた。ブータンの民族衣装も菊池先生にご持参いただいた。雲南省調査中に入手したタイ族の民族衣装とAPU 留学生にいただいたブータンの男性用民族衣装も用意し、全員で着装した。

6 講義(朝比奈 ブータン・雲南省のフィールド調査)

朝比奈先生から自身が研究代表者としてフィールド調査した、雲南省での調査の様子や薬用植物に関する研究内容、異分野で連携して研究することのおもしろさについて講義をしていただいた。

7 講義(都甲・朝比奈 研究職の仕事、科研費の説明)

研究者になるための自身の体験や道筋、研究職の仕事内容、科研費事業の取組み内容について説明した。参加した中高生 9 名中 8 名は女子であったことから、最近特に日本で女性も研究者を目指すよう促されている動向についても紹介した。

8 修了式(アンケート記入、未来博士号授与)

最後に、修了証を渡してアンケートをとり、終了した。



ゲスト講師 朝比奈はるか先生の講義



修了式

●事務局との協力体制

事務局との協力では、開催までの準備として、日本学術振興会との連絡調整、提出書類の確認・修正、広報課と連携した宣伝、ポスター等の県内高校への配布および高校訪問の際の同行、参加申し込みの受付、委託費の管理について協力を受け、開催当時は、会場準備、受付、お弁当等の手配について協力を受け、円滑に開催することができた。

●広報活動

本年度は下記の広報活動を行った。今回 3 回目であったが、募集 20 名に対して参加は 9 名であった。くり返し開催することで中高教員との信頼関係や中高生同士の評判により参加者の増加が見込まれると考える。

- ・昨年高校のみとした募集を中学校にも広げた。
- ・ポスターとチラシを作成して県内の中学校・高校に配布した。
- ・近隣の中学校・高校に直接訪問し理科・家庭科の教員に宣伝をお願いした。
- ・大学の公式ホームページ、Facebook 等、インターネット上で宣伝をした。

●安全配慮

- ・プログラム実施日の参加者を対象として傷害保険に加入した。
- ・染色を行う際にガスの火を使い、また、刺繍では針やハサミ等を使用するため、研究室の学生を配置し、火傷や怪我のないよう配慮した。

●今後の発展性、課題

募集締め切り直前まで計画していた募集人数よりも参加人数が少なく、追加募集の案内を行うなど参加者の確保に苦労したが、開催当日は、海外をフィールドとした生活科学の研究に関心をもってもらうことができたと感じている。また、何よりも一日中笑顔が多く見られ、参加者の様子やアンケートの結果から参加者の満足度は高いと感じられたため、次回は、開催時期や広報活動など今回の反省点を生かして内容を整理し、より多くの参加者を集めて開催したいと考えている。

【実施分担者】 なし

【実施協力者】 _____ 9 名

【事務担当者】 後藤 史彦 研究・社会連携部研究・社会連携課・一般職員